報　告

平成19年度日本医学図書館協会近畿地区会 日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会 近畿病院図書室協議会共催シンポジウム参加記

増田　徹

今回会場となった兵庫医療大学は、本当に美しい大学であった。2007年4月に開学したばかりのキャンパスは神戸ポートアイランドにあり、学校のすぐ隣が海で、対岸には神戸ハーバーランドが広がる。洋風の甍の校舎も壮麗で、奥の一際目立つ八角形の建物が、今回シンポジウムが行われた、その名の通りオクタホールである。ホールは、講演者の背後にある窓を通して海が見渡せるようにつくられていて、会場に入る参加者の目をうばっていた。

さてシンポジウムであるが、2007年11月9日金曜日に、「電子ジャーナル導入の図書館業務への影響 特にILLの観点から」というテーマで行われた。午前中は紀伊國屋書店による「Serials Solutions」という電子ジャーナル管理ソフトのプロダクトレビューがあり、午後は大学図書館員2名と病院図書館員1名による講演、それから隣接する3大学の大学図書館見学会が行われた。

今回のシンポジウムには、本学がまもなく電子ジャーナルを導入していくことになるという状況で参加させていただいた。実際に電子ジャーナルを運用したことはなく、ぶつ切りで持っている知識以外はよくわからない状態である。一般的に、そういった状態で何かについて知りたいと思うときに、こちらの意に沿うよう、うまく説明してもらえるものに出合うことはまれである。ある程度わかってくると、みなそれなりに工夫して、上手に説明されていることがわかるのであるが、そこにたどりつくまでは、ひとり情報を求めてさまようことになる。そのときに一番効果的なのは、わかっている人にていねいに教えてもらうことだが、なかなかそうもいかない。その点研修会というのは、活字を読むより助けになると思っている。まさに今回のシンポジウムがそうであった。脱線も含めていろいろな話が織りなされる中、講演者の力点の置き方などを感じながら、わからないものの輪郭を見定めていくことができた。電子ジャーナルで問題になるのは、電子ジャーナルそのものより、それをとりまく環境の整備なのだと思う。午前のプロダクトレビューでは、製品の持つ機能の一つ一つが電子ジャーナルの抱える問題を示してくれたし、午後の講演においては、講演者の方々がそれぞれどんなことで苦心しているのかを率直に話していただき、電子ジャーナルについての理解を深められた。

講演していただいた講師の先生方を含め、シンポジウムに携わった方々に、感謝申し上げます。

ますだ てつ：藍野大学 中央図書館
t-masuda@kanri-u.aino.ac.jp